

学校だより



川原っ子

令和5年11月15日
高岡市立川原小学校
第7号

仲間の力

3年担任 仁井田 由香子

11月2日(木)に校内マラソン大会が行われました。4分間走や体育の時間に練習に取り組み、児童一人一人が自己記録更新に向けて継続して努力をしてきました。

体育の時間、3年生の様子を見ていると、ペアで前半・後半に分かれて走る練習をしていました。どの児童も自分の目標に向かって一生懸命に走っていました。その練習の中で、私が一番心に残ったのは、友達に、大きな声で「頑張れー!」「目標まであとちょっとだよ。」「いいね!」という励ましの言葉をかけたり、走った後で疲れているはずなのにペアの友達と一緒に並走しながら応援したりしていた子どもたちの姿です。



長距離を走るのは、しんどいです。苦手な人はもちろん、得意な人もやっぱり苦しいししんどいと思います。でもしんどいこともみんなで立ち向かっていけば、一体感が生まれてきます。しんどいことでも自分なりに乗り越えていけば、大きな自信になると思います。子どもたちが一生懸命走る姿、友だちを応援する姿を見て、「頑張れ」という言葉はけっして無理を強いる言葉でも現状を否定する言葉でもなく、一人一人のもっている輝きを大切にしてほしいって祈る言葉なのかもしれないと思いました。そして、どんなにしんどくても苦しくても自分の姿を認め励ましてくれる仲間がいるから頑張れるのだと思いました。仲間からもらえるパワーってすごい!と改めて感じました。一つ一つの体験が、子どもたちを大きく成長させます。うまくいったこと、うまくいかなかったこと、努力してきたこと、などの心揺さぶられることが、心の成長につながるのだと思います。残り4か月、子どもたちが仲間と共に、さらに成長できるよう全力で応援していきたいと思います。

川原小学校の最後の高学年

6年担任 廣坂 健太郎

4年生の「閉校ばく上げ隊」が飾ってくれた「閉校カレンダー」が、毎日一枚ずつめくられています。川原小学校が閉校する日が少しずつ近づいてきています。

5、6年生は、川原小学校の閉校に際して、川原小学校で過ごした学校生活のことを振り返りました。その中で、「川原っ子みんなと閉校前に楽しい思い出を作りたい」「学校生活を支えてくださった家族や地域の方に感謝したい」「川原小学校の卒業生のみなさんに閉校について伝えたい」といろんな思いが一人一人に浮かんできました。そこで、5、6年生は川原っ子が企画する「閉校プロジェクト」の活動を始めることにしました。

子供たちは「感謝部」「校舎部」「楽しみ部」「歴史文化部」などに分かれて、それぞれの思いに合わせてイベントや行事を計画しています。また、1年生から4年生までの川原っ子の思いから生まれる閉校に関わるイベントや取り組みも「閉校プロジェクト」としてみんなで関わられるようにしたいと思っています。

5・6年生が学年の枠を越えて、チームで話し合ったり、準備したりする姿は頼もしく感じます。子供たちは、自分たちで企画したことが少しずつ実現に向けて具体化していくことにやりがいや喜びを感じているようです。

小学校の閉校という歴史の節目の年に高学年として過ごした1年間で、子供たち一人一人にとって新しい一歩を踏み出す4月からのエネルギーとなることを願っています。そして、大人になったときに、川原小学校の最後の一年が母校を懐かしむ大切な思い出として心の中に残ってほしいと思っています。

